

～ 健口と輝く笑顔のために～ ASSOCIATION
歯科衛生だより 会報

2026 April vol. 92 発行人/武藤 智美 発行/公益社団法人日本歯科衛生士会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
 TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023 <https://www.jdha.or.jp/>

令和7年度災害歯科保健歯科衛生士フォーラム開催報告

令和7年12月7日(日)令和7年度災害歯科保健歯科衛生士フォーラムが開催され、各都道府県会より代理出席を含む災害歯科保健統括業務調整(統括ロジスティクス)歯科衛生士(以下「統括ロジ」)46名が参加した。

今回のフォーラムは日本災害歯科保健医療連絡協議会やJDAT標準研修に関する内容など統括ロジと共有しておきたい事項についての報告から始まった。



続いて、令和7年11月18日に発災した大分県佐賀関大規模火災における対応について大分県歯科衛生士会の木村ひとみ統括ロジよりJDAT大分としての活動が報告された。

講演では、災害歯科保健委員会の鳴海委員より「ロジへの道」と題し、ロジに必要な指揮命令系統等について講演いただいた。参加者からは、新たな知識の習得や業務内容の再確認につながったなどの意見が多く寄せられた。



昼食時間はブロックごとに分かれ、ブロック理事にも参加いただき交流の機会とした。

午後は、災害発生時に統括ロジが担う多岐にわたる業務について、参加者が主体的、かつ活発に意見交換できるよう、本委員会が企画・作成したすごろく形式の「ロジ育成プロジェクトゲーム」を実施した。ワーク開始とともに参加者から歓声が上がリ、各自がサイコロを転がしながら課題に取り組み、活発な意見交換が行われた。



参加者アンケートでは、「楽しみながら統括ロジの業務内容を学べた」「意見を出しやすい雰囲気だった」「自県に持ち帰りたい」など、好意的な評価が多数寄せられた。

まとめとして、各グループで特に意見交換が活発であった内容を発表し、他グループからの意見も交えながら内容の深化を図った。

今後も災害歯科保健活動に関心を持つ歯科衛生士の裾野を広げ、継続的な人材育成を通じて、災害歯科保健活動のさらなる推進を図っていきたい。

(公益社団法人日本歯科衛生士会 災害歯科保健委員会)



災害歯科保健活動
 歯科衛生士実践
 マニュアル



災害歯科保健活動
 歯科衛生士登録者名簿

日本歯科衛生学会 第21回学術大会のご案内

第21回学術大会は、埼玉県さいたま市、^{レイボック} ^{ホール} RaiBoC Hall(さいたま市民会館おおみや)において2026年9月20日(日)、21日(月・祝)の2日間で開催いたします。

会員発表演題は、第21回学術大会ウェブサイトにて4月15日(水)13:00まで受け付けています。参加登録は6月1日(月)より開始予定です。登録方法は、次号「歯科衛生だより会報」および大会ウェブサイトにてご案内しますので、参加を検討されている方は、随時、大会ウェブサイトや日本歯科衛生学会公式X(旧Twitter)をご確認ください。なお、今回から会場開催のみとなり、オンデマンド配信は行いません。多くの皆様のご発表とご参加をお待ちしています。

- メインテーマ** 新たな時代を担う歯科衛生士の未来 — 歯科衛生士の地位向上を目指して —
- 開催日程** 2026年9月20日(日)～21日(月・祝)
- 会場** ^{レイボック} ^{ホール} RaiBoC Hall(さいたま市民会館おおみや)
- 主催** 日本歯科衛生学会、公益社団法人日本歯科衛生士会
- 共催** 公益社団法人埼玉県歯科衛生士会
- 後援予定** 埼玉県、さいたま市、一般社団法人埼玉県歯科医師会、さいたま市歯科医師会、一般社団法人大宮歯科医師会
- 大会ウェブサイト** <https://jsdhm.jdha.or.jp/21th/>
- 公式X(旧Twitter)** @jsdh_official

第21回学術大会
ウェブサイト



日本歯科衛生学会
公式X



プログラム

※タイムスケジュール等は、変更になる場合があります。また、本大会において新企画「スタートアップ研究集会」を開催いたします。開催日時等の詳細や今後の変更、未定事項は決定次第、大会ウェブサイトにてお知らせします。

9月20日(日) 10:30～11:30 11:40～12:40 13:00～13:50 14:00～15:00 15:10～17:01	開場(9:30) 開会行事、表彰式、学術賞授賞者プレゼンテーション 特別講演：我が国の高等教育のグランドデザインと歯科衛生士養成 日本歯科医学会連合理事長 安井 利一 氏 ランチョンセミナー 県民フォーラム：一生懸命おいしく食事をとるために今必要なこと 明海大学歯学部機能保存回復学講座 摂食嚥下リハビリテーション学 教授 大岡 貴史 氏 お口の健康体操 会員演題発表(専門領域別研究集会を含む)	商業 展 示
9月21日(月・祝) 9:50～10:00 10:00～12:00 12:10～13:00 13:10～14:10 14:20～16:11 16:20～	開場(9:30) 第22回学術大会案内 シンポジウム テーマ：未来に向かって求められるスキルとは 基調講演：多職種連携を担う歯科衛生士に求められる専門的スキルとその育成 国立保健医療科学院主任研究官 福田 英輝 氏 講演1：調整中 講演2：未来に向かって歯科衛生士とともに作る健康な地域 さいたま市保健衛生局 保健所副理事 統括保健師 岩瀬 真澄 氏 講演3：障害者施設における多職種との関わり — 歯科衛生士の立場から求められること — 埼玉県社会福祉事業団 嵐山郷 歯科診療部 大久保 典子 氏 ランチョンセミナー 教育講演：歯科衛生士の『過去、現在、そして未来』 — 古きを温めて新しきを知る — 明海大学客員教授・前埼玉県本庄保健所所長 遠藤 浩正 氏 会員演題発表(専門領域別研究集会を含む) 閉会式	商業 展 示

2026年度 公益財団法人富徳会研究助成のご案内

2026年度の募集は、4月1日より始まります。対象は、歯科衛生業務に従事する歯科衛生士(業務経験2年以上で、40歳以下)です。

応募方法などの詳細は、富徳会ホームページ[<https://www.isi-sys.net/futokukai/>]をご覧ください。

令和8年度 認定歯科衛生士セミナー開催のお知らせ

生活習慣病予防（特定保健指導-食生活改善指導担当者研修）コース

本コース(食生活改善指導担当者研修30時間)を受講した者は、食生活の改善指導に関する専門的知識および技術を有するものと認め、「特定保健指導-食生活改善指導担当者」として、保健指導の実施者(医師・保健師・管理栄養士)が作成した特定保健指導支援計画に基づき、食生活の改善支援および運動支援(3メッツ以下)を実施することができる。

日程
●オンデマンド配信:8月31日(月)~10月16日(金)
●ライブ配信:10月17日(土)
●認定テスト:10月17日(土)
受講料:30,000円
定員:40名

摂食嚥下リハビリテーションコース

摂食嚥下障害を有する対象者に、歯科衛生士として適切で水準の高い摂食嚥下リハビリテーションを計画的、科学的に実践するために、リスク管理を含む全人的な観点から、問題解決能力と臨床的技能、臨床的態度を備えているか確認する。日本摂食嚥下リハビリテーション学会の協力により実施される。

日程
●オンデマンド配信:9月23日(水・祝)~11月21日(土)
●集合型研修:11月22日(日)~23日(月・祝)
●認定テスト:11月23日(月・祝)
受講料:35,000円
定員:40名

在宅療養指導・口腔機能管理コース

歯科衛生士は、口腔衛生管理および口腔機能管理を包括した「口腔健康管理」を必要としている、より多くの在宅療養者に対応することが求められてきている。さらに、近年は医療機器や薬剤、医療的ケア児の知識も必要になってきている。疾患や障害に伴う口腔のあらゆる管理だけでなく、疾患や障害の把握を行い、在宅患者における様々な事象に多職種と連携を取りながら対応できる能力を身につけることが不可欠である。本プログラムは在宅療養者の支援に必要な口腔健康管理の知識・技術を習得できるよう組まれたものである。

日程
●オンデマンド配信:8月4日(火)~9月4日(金)
●ライブ配信:8月30日(日)
●集合型研修:9月5日(土)~6日(日)
●認定テスト:9月6日(日)
受講料:40,000円
定員:40名

糖尿病予防指導コース

糖尿病予防の歯科保健指導および管理にかかる専門的な知識・技術を習得し、地域社会に貢献できる医学的、歯学的な知識と歯科保健学的技能を習得する。徳島大学歯学部との協力により実施。

日程
●オンデマンド配信:9月1日(火)~10月30日(金)
●集合型研修:10月31日(土)~11月1日(日)
●認定テスト:11月1日(日)
受講料:35,000円
定員:40名

医科歯科連携・口腔機能管理コース

医科歯科連携のもと、医科疾患患者の口腔健康管理を実践するために必要な知識、技術を習得する。東京歯科大学に委託実施。

日程
前期 ●オンデマンド配信:8月1日(土)~8月29日(土)
●ライブ配信:8月30日(日)
後期 ●集合型研修:8月31日(月)、9月14日(月)
(5名ずつ2班に分けて実施 認定テスト)
受講料:55,000円
定員:10名

歯科医療安全管理コース

医療連携、多職種連携に対応し、歯科医療機関における組織的な医療安全管理体制を整備するために、高度で総合的な医療安全、感染対策の実践および指導技術を習得した歯科衛生士を養成する。広島大学歯学部にて委託実施。

日程
●オンデマンド配信:8月1日(土)~9月13日(日)
●ライブ配信:9月5日(土)~6日(日)
●認定テスト:9月6日(日)
受講料:35,000円
定員:36名

認定歯科衛生士セミナーの各コースのプログラムの詳細は二次元コードを読み取りご確認ください。
受講申し込みはオンラインにより4月1日(水)から受け付けを行います。
受講対象者には日本歯科衛生士会ウェブサイトの会員ページにてお知らせしておりますので、そちらよりお申し込みください。



各コースプログラム詳細

令和6年度 地域歯科保健活動実施状況報告概要

公益社団法人日本歯科衛生士会では各都道府県歯科衛生士会の歯科保健活動状況を把握し、今後の推進方策等の基礎資料とするために毎年調査を実施している。以下に令和6年度調査結果を報告する。

なお、令和6年度より、事業の実施回数のみを調査対象とした。

I 調査方法及び調査項目

調査方法

47都道府県歯科衛生士会に調査票を電子媒体にて送信し回答を得た(回答率:100%)。

実施主体別状況

1 主催事業

都道府県歯科衛生士会が計画、実施した事業

2 共催・協力・後援事業

行政、歯科医師会、その他から依頼を受けて実施した事業

3 受託事業

行政、歯科医師会、企業等から委託を受け、委託契約書を交わして実施した事業

事業内容別状況

- 母子歯科保健事業
- 学校歯科保健事業
- 成人歯科保健事業
- 高齢者・要介護者歯科保健事業
- 障害(児)者歯科保健事業
- 休日救急歯科診療事業
- 歯と口の健康週間事業
- その他事業
- 各種委員会への構成員としての参画

II 調査結果

1. 実施主体及び依頼機関別状況

令和6年度事業実施回数は56,057回であり、前年度の51,105回より約5,000回増加した。

実施主体別では、共催・協力・後援事業が36,094回(64.4%)、受託事業が19,685回(35.1%)、主催事業は278回(0.5%)であり、前年度とほぼ同様の割合だった(図1)。

依頼機関別にみると、行政からの依頼は共催・協力・後援事業が67.1%、受託事業が71.3%と、いずれも約7割を占めていた。歯科医師会からの依頼は共催・協力・後援事業が18.4%、受託事業が19.5%だった。

共催・協力・後援事業について、歯科医師会からの依頼が前年度と比較し5%減少した一方で、その他からの依頼は前年度の7.2%から14.6%と倍増した(図2,3)。

2. 事業内容別状況

事業内容別でみると、母子歯科保健が18,999回(33.9%)と最も多く、次いで高齢者・要介護者歯科保健が14,696回(26.2%)、学校歯科保健が6,618回(11.8%)であった(図4)。

事業依頼機関別でみると、行政からは母子歯科保健が47.0%と最も多く約半数を占めているが、ここ数年は減少傾向にある。次いで高齢者・要介護者歯科保健が19.4%、次に委員会参画が12.7%であった。

歯科医師会からは休日救急歯科診療が25.9%と最も多く、次いで高齢者・要介護者歯科保健が21.6%、次に学校歯科保健が20.1%であった。近年は高齢者・要介護者歯科保健が最も多かったが、今年度については休日救急歯科診療がこれを上回り、最も多くなっていた(図5)。

3. 年次別活動状況

事業内容別にみると、近年、最も多いのは母子歯科保健であるが令和元年度よりも少ない状況である。次に多いのは高齢者・要介護者歯科保健であり、ここ数年増加傾向にある。

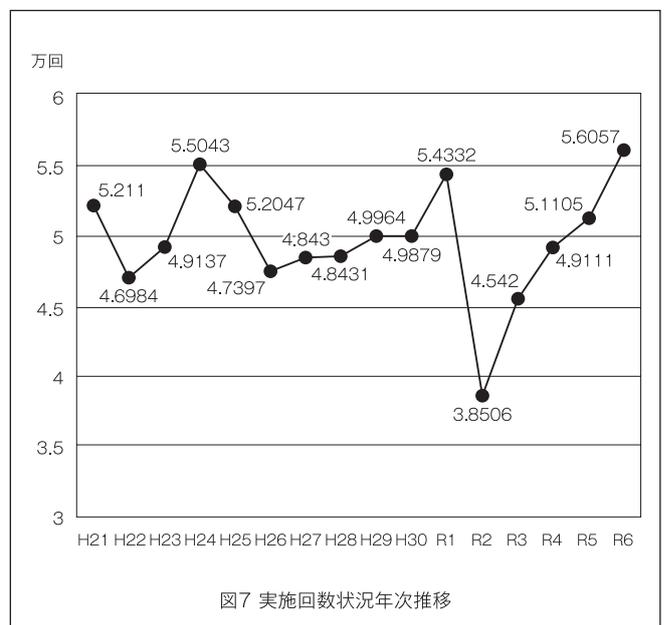
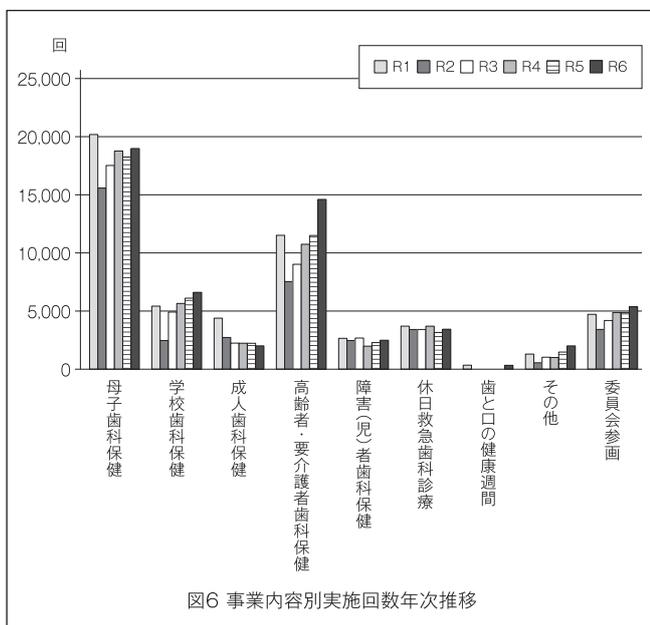
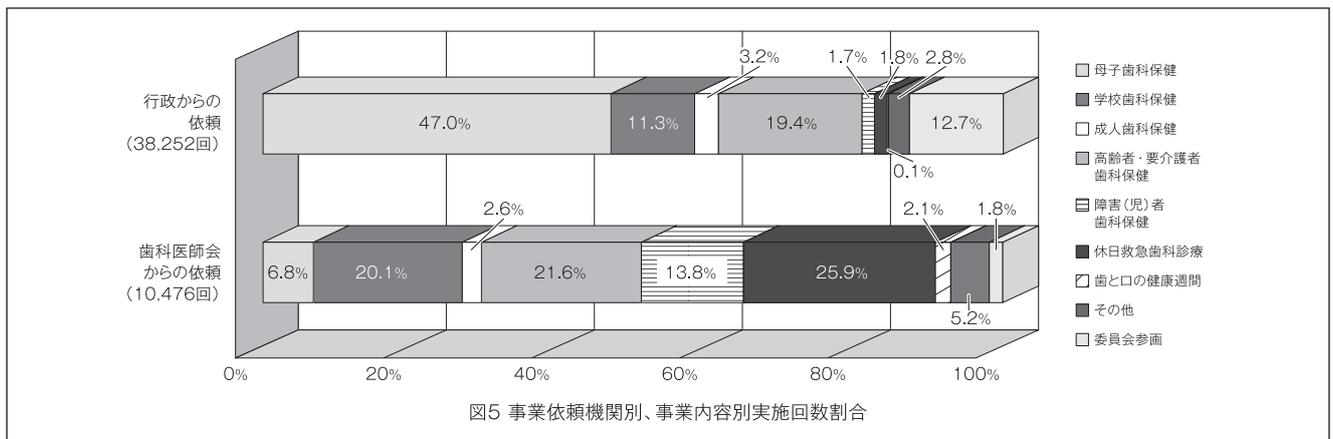
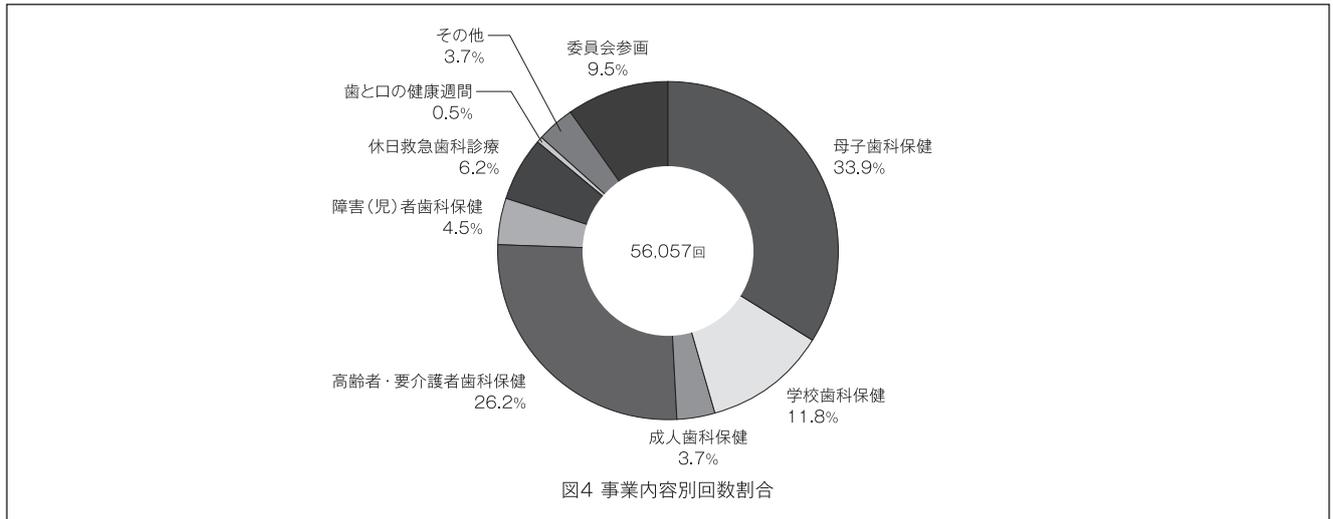
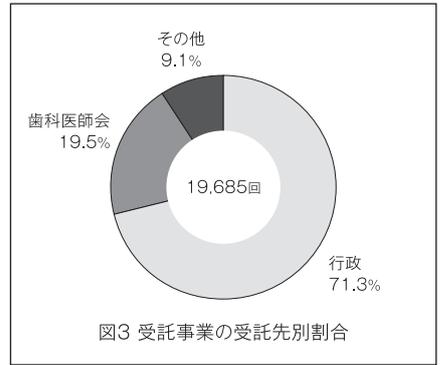
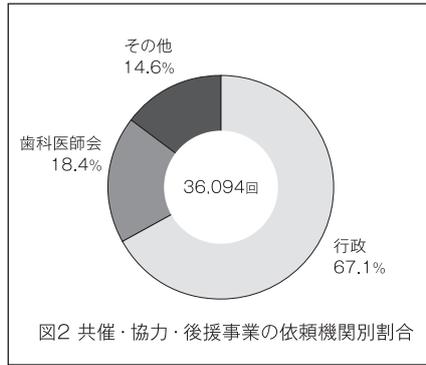
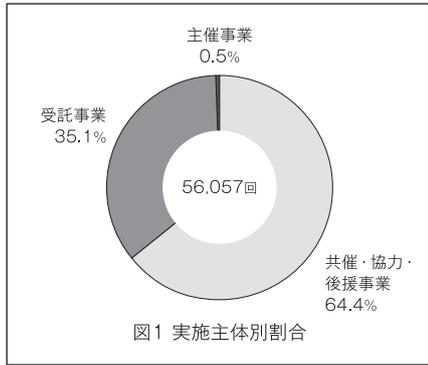
新型コロナウイルス感染症の流行前の令和元年度より増加していた事業は、学校歯科保健、高齢者・要介護者歯科保健、委員会参画だった。一方で減少している事業は、成人歯科保健であった(図6)。

実施回数について平成21年度より経年的に見てみると、過去最も多い平成24年度の55,043回よりも今年度は約1,000回上回っていた(図7)。

III まとめ

調査結果から、地域において各ライフステージに対応した各種事業が継続的に展開されていることがうかがえた。特に、高齢者・要介護者歯科保健及び委員会参画は増加傾向にあり、歯科衛生士として専門的かつ直接的な歯科保健サービスの提供や、生活に寄り添った助言へのニーズが高まっていることが推察された。社会のニーズに応じて変遷する地域歯科保健活動状況を適切に把握し推進するため、調査項目の整理および調査内容の改善に努めていく。

(公益社団法人日本歯科衛生士会 地域歯科保健委員会)



令和7年度 ブロック連絡協議会・ブロック研修開催報告

中国四国ブロック(鳥取県)

一般社団法人鳥取県歯科衛生士会 会長 小谷 弘美

令和7年11月8日(土)～9日(日)中国四国ブロック連絡協議会を米子市において開催した。日本歯科衛生士会から岡田昌子専務理事、柴田久美ブロック理事、中国四国9県の会長・役員18名と開催県の鳥取県役員を含め31名が参加した。初日の協議会では、岡田専務理事から勤務実態調査の結果をもとに歯科衛生士の人材確保と育成についての説明があり、柴田ブロック理事より組織委員会からの情報提供をいただいた。協議会では、昨年度の振り返りを行い、各県会の現状報告と問題点、会員数増加への取り組み、会員募集・入会案内等の周知状況が報告された。また、災害時への備え・安否確認の方法等について、参加者から活発な意見交換がなされ、時間をオーバーして終了となった。



2日目は(株)デンタルフォーサイト代表の上田和美氏を講師に、「明日を拓く組織へ～成長と人づくりで未来を開く～」という演題で①組織とは何か②組織をマネジメントする③組織開発と人材育成④リーダーシップ⑤組織を拓くについて講演していただいた。グループワークでは、事前に各県会のSWOT分析を行い、当日はクロスSWOT分析を用いて各県会の「強み」と「弱み」を分析した。規模の大小に関わらず課題があり、弱みを強みにも変えていくことができることを知り、各県会が何から取り組むか目標を発表した。

開催にあたり、日本歯科衛生士会、各県会の皆様の温かいご協力のもと有意義なブロック協議会・研修となったことに感謝申し上げます。

近畿ブロック(京都府)

公益社団法人京都府歯科衛生士会 会長 吉本 美枝

令和7年11月9日(日)、京都府(会場：京都テルサ)において、近畿ブロック連絡協議会・ブロック研修が開催された。日本歯科衛生士会からは河野章江副会長、石川奈保美副会長、小前みどりブロック理事が、近畿2府4県からは会長・副会長をはじめとする役員が参加した。



連絡協議会では、河野副会長より、令和8年度予算・制度などに関する要望書をもとに、「歯科衛生士の人材確保」「今後の歯科保健医療ニーズに応える人材育成のための教育研修体制」「医科歯科連携・地域連携における口腔健康管理の推進」「災害歯科保健医療」「行政に関わる歯科衛生士の配置促進」などに関する日本歯科衛生士会の最新情報が提供された。また、各県会からは事前に互いに質問事項を設け、それぞれの質問に対する回答や、各県における取り組み状況について情報共有と活発な意見交換が行われた。

続く研修では、「歯科衛生士の業務に関する検討会で議論されている歯科衛生士の需給に関する話題」と題し、阪口英夫先生(医療法人永寿会 陵北病院副院長)による講演が行われた。その後、「歯科衛生士の資格を有しながら、歯科衛生士として就労していない人はいかに復職してもらうか」をテーマに、参加者によるグループワークを実施し検討した。各グループでは活発な議論が交わされ、今すぐにでも取り組みそうな具体的な意見も多数示された。

今回、近畿ブロック連絡協議会・ブロック研修を無事に開催することができたのは、参加者各位ならびに運営に尽力した関係者の協力によるものであり、ここに深く感謝の意を表す。なお、次年度は和歌山県歯科衛生士会の主催により開催される予定である。

九州ブロック(大分県)

一般社団法人大分県歯科衛生士会 会長 渡邊 弘美

令和7年度九州ブロック連絡協議会・ブロック研修が11月22日(土)～11月23日(日)に大分県にて開催された。日本歯科衛生士会から久保山裕子副会長、八木浩子ブロック理事、九州8県から会長・副会長・理事が参加した。初日の研修会では「持続可能な組織づくりと歯科医療連携」というテーマで福岡県歯科医師会専務理事の川端貴美子先生にご講演をいただき、グループワークで各県の取り組みを参考にしながら、今後の方向性について活発な意見交換が行われた。協議会では各県会から組織運営や人材育成に関する現状報告がなされ、役員体制の工夫や研修会事業の見直しなど、持続可能な組織づくりに向けた多様な意見が共有された。県単位では解決が難しい課題についても、ブロックとして連携し取り組む意義が確認された。本協議会を通じて、九州各県の連携強化と情報共有の重要性が改めて認識された。今後も本協議会で得られた知見を各県会で活動に活かし、持続可能な組織づくりと歯科医療連携に努めていく所存である。



無事に開催できたことに感謝申し上げますと共に、出席された皆様に厚く御礼申し上げます。

次回の九州ブロック連絡協議会は鹿児島県において開催予定である。本協議会で得られた成果を踏まえ、さらなる連携強化と歯科衛生士会活動の充実が図られることが期待される。

東海北陸ブロック(岐阜県)

一般社団法人岐阜県歯科衛生士会 会長 藤井 重子

令和7年12月6日(土)~7日(日)に、日本歯科衛生士会より武藤智美会長並びに東海北陸ブロック渡邊理沙理事、各県2名の役員が参加し、東海北陸ブロック連絡協議会・ブロック連絡協議会・ブロック研修が開催された。

初雪も消えた良く晴れた両日、遠くの山頂には岐阜城がよく見える岐阜県歯科医師会館にて、1日目の協議会では、武藤会長・渡邊ブロック理事より日本歯科衛生士会からの情報をいただき、各県からの質問・要望・意見にご回答いただいた。2日目の研修会では、武藤会長を講師に「こんな日衛にしたい!」というテーマで講演いただいた。講演内容を受けてグループワークではコンセプトシートを使用して、実現可能か不可能かに関係なく、発想の転換・システム変更・将来に向けての夢などが提案された。たくさんの発案の中から今後のヒントになるものが含まれていることを願う。

武藤会長の講演は、専門歯科衛生士や特定行為の議論が始まっていることなど歯科衛生士や日本歯科衛生士会の未来に希望や期待が持てる内容であった。最後は診療所委員会キャラクターのシン子ポーズで賑やかに締めくくられた。詳しくは、岐阜県歯科衛生士会 Instagramにて配信している。ご協力いただいた皆様方に感謝申し上げます。



令和7年度東海北陸ブロック研修会 グループワーク R7.12.7

こんな日衛にほしい!

コンセプトシート

ネーミング

ターゲット (例: 学生、正会員、準会員、若い歯科衛生士、各協会、事務局等)

何を

何のために

どうするか

望む姿 (こんな日衛になる!)

・発想の転換
・システム変更
・将来に向かう夢
実現可能、不可能に関係なく前向きな発想をお願いします。



岐阜県歯科衛生士会Instagram

令和7年度「歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会」報告

厚生労働省補助事業「令和7年度歯科衛生士の人材確保実証事業」の一環として、日本歯科衛生士会は「歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会」を主催している。9年目となる今年度も、令和7年10月12日・13日、12月13日・14日、令和8年1月11日・12日、1月31日・2月1日の各2日間、計4回実施した。今年度も4回すべてWeb開催とし、92人(会員外6人を含む)が修了した。

本講習会は、地域で中核を担う指導者の人材育成を目的とし、「歯科衛生士のための研修カリキュラム開発」というテーマのもと、カリキュラムプランニングや人材育成、コミュニケーション技法などについて、ワークショップを随所に取り入れながら研修を進めた。

「指導者の人材育成」を目的としているため、すでに指導的な立場にいる歯科衛生士の受講率が高い。しかしながら近年、20代の受講生が増加する傾向にある。今年度も4回の日程のすべてに複数名の20代の受講生が参加していた。昨春入職した、歯科衛生士1年目の受講生の参加もあった。自分自身まだ新人ではあるが、数か月後には後輩が入職してくるため、この講習を受講したそうである。同じグループになった先輩歯科衛生士たちからは、「新人歯科衛生士の生の声を聞きながら指導カリキュラムや問題点解決のための検討を進められるという、貴重な経験ができた」という感想も聞かれた。

参考として、修了生の年代別内訳を令和4年度と比較してみた(図1)。統計的な比較までは行っていないが、20代の割合の増加が見取れると思う。これから指導的な立場になっていく歯科衛生士たちが、その立場になる前からこのような研修に参加し、計画的に指導を進めていくことは、確実に離職防止に繋がっていくと思われる。

「Web開催」であることのメリットとして、遠方から参加しやすい、小さな子どもがいても自宅で受講できる、などが挙げられる。一方で、たとえ同じメンバーでワークショップをしても、Webではわずか2日間で雑談などによりコミュニケーションを取れるほど打ち解けることはやはり困難である。

日本の北から南までの参加者が集まる貴重な機会のため、「仲間づくり」という課題に関しても検討していきたい。

(公益社団法人日本歯科衛生士会 指導者等講習会企画運営委員会)

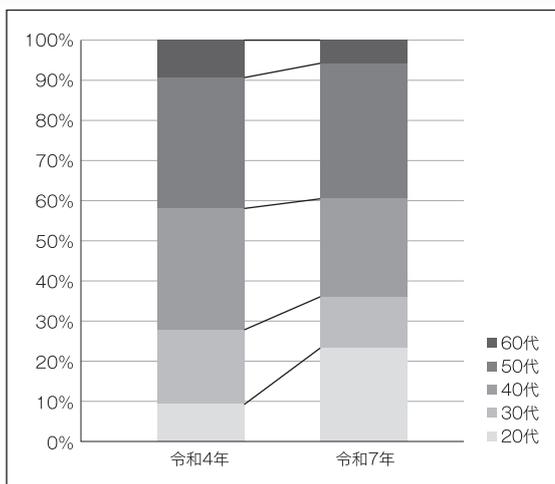


図1 修了生の年代別内訳の比較

令和6年度地域歯科衛生活動事業助成の実施報告と動画紹介

令和6年度地域歯科衛生活動事業助成を受けた団体の実施報告書をウェブサイトに掲載しました。

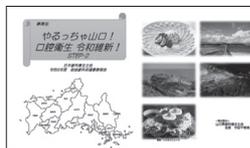
過去の報告書も閲覧しやすいよう掲載しております。

また、令和4年度から、報告動画もオンデマンドにて公開しています。書面では伝えきれない取組みのポイントなどが、分かりやすくまとめられています。

ぜひご覧いただき、都道府県歯科衛生士の活動の参考にしてください。



https://www.jdha.or.jp/info/info_houkoku.html



第5次生涯研修制度の修了証書について

第5次生涯研修制度「専門研修(基本研修、特別研修、指定研修)」の修了証書は、会員ページ [修了証ダウンロード](#) より令和8年12月末までの期間にダウンロード可能です。詳細は二次元コードを利用して、ご確認ください。

郵送はいたしませんので、各自でのご確認およびダウンロードをお願いいたします。

(公益社団法人日本歯科衛生士会 生涯研修委員会)



理事会報告

令和7年度第5回理事会が令和8年1月18日(日)に開催された。審議事項と報告事項は次のとおりである。

審議事項

- (1) 日本歯科衛生士学会第21回学術大会開催費用、参加費等について
- (2) 令和8年度職員給与について
- (3) 令和7年度委員会活動評価ならびに令和8年度委員会活動計画(案)について
- (4) 第29回感染症予防歯科衛生士講習会実施要領(案)について
- (5) 令和8年度事業計画の概要(案)について
- (6) 令和8年度収支予算(内訳書)(案)について
- (7) 令和8年度認定歯科衛生士セミナー実施計画(案)について
- (8) 第5次生涯研修制度の一部改正について
- (9) 令和6年度地域歯科保健活動実施状況報告書について
- (10) 令和8年度「地域歯科衛生活動」事業の助成について
- (11) 2026歯科衛生国際シンポジウムおよびHoD会議について
- (12) 日本歯科衛生士会キャラクターデザインの決定について
- (13) 令和8年度全国病院歯科衛生士連絡協議会実施要領(案)について
- (14) 歯科衛生士のための認知症の理解と接し方のアイデア集について
- (15) 令和8年度ブロック連絡協議会、ブロック研修実施要領(案)について
- (16) 歯歯業出版株式会社からの寄付金の受領並びに、デンタルHR総研株式会社からの寄付金の申込みについて
- (17) 新入会員の承認について
- (18) その他

② 常任委員会等の報告

- (2) 監査実施報告
- (3) 新宿税務署による税務調査報告
- (4) 日本歯科衛生士学会第20回学術大会報告(オンデマンド配信終了時)
- (5) 令和7年度災害歯科保健歯科衛生士フォーラム実施報告
- (6) 令和8年度厚生労働省歯科関連予算案
- (7) 後援名義使用及び生涯研修制度の研修単位認定
- (8) 歯学系学会合同脱タバコ社会実現委員会報告
- (9) 国民医療を守る総決起大会への参加報告
- (10) 「歯科衛生士による浸潤麻酔の実施に向けた研修プログラム作成のための研究」への研究協力報告
- (11) 歯科専門職の業務の普及啓発事業委員会報告
- (12) 歯科保健医療情報サイトの在り方検討委員会報告
- (13) 専門歯科衛生士制度検討委員会報告
- (14) 令和7年度都道府県歯科衛生士会会長会・分科会のグループ分け
- (15) 令和7年度都道府県歯科衛生士会への研修支援実施状況
- (16) 令和8年度都道府県歯科衛生士会への研修支援
- (17) 創立75周年事業の準備状況報告
- (18) 関係団体理事、外部事業委員会委員等の推薦
 - ・公益財団法人8020推進財団理事の交代
 - ・歯科ヒヤリ・ハット事例収集等事業総合評価部会委員の交代
 - ・第83回全国小学生歯みがき大会組織委員
- (19) その他
 - ・令和7年度 都道府県歯科衛生士会会長会・分科会 役割分担

報告事項

- (1) 会務報告
 - ① 業務執行理事等の職務執行報告